

安全データシート

アースコールR-2

作成 (改訂) 2021年6月

18日

1. 化学物質等会社情報

製品名	アースコールR-2
会社	ウエルシー製薬株式会社
住所	兵庫県神戸市東灘区御影町3-2-11-11
電話番号	078-843-1212
ファクス番号	078-336-3606
緊急連絡先	ウエルシー製薬株式会社
電話番号	078-843-1212

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	区分2
	可燃性固体	分類対象外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	区分外
	自然発火性固体	分類対象外
	自己発熱性化学品	区分外
	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	区分外

健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分5
	急性毒性（経皮）	区分5
	急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	区分外
	急性毒性（吸入：粉じん）	分類対象外
	急性毒性（吸入：ミスト）	区分外
	皮膚腐食性・刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2A-2B
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	区分1B
	発がん性	区分1A
	生殖毒性	区分1A
	特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	区分1（中枢神経、視覚器、全身毒性） 区分3（麻酔作用、気道刺激性）
	特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	区分1（中枢神経系、視覚器、肝臓） 区分2（神経）
環境に対する有害性	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	水生環境急性有害性	区分外
	水生環境慢性有害性	区分外

ラベル要素

絵表示、シンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報：

引火性の高い液体及び蒸気

飲み込むと有害のおそれ（経口）

強い眼刺激

皮膚に接触すると有害のおそれ（経皮）

皮膚刺激

遺伝性疾患のおそれ

生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

発がんのおそれの疑い

中枢神経系、視覚器、全身毒性の障害

呼吸器への刺激のおそれ

眠気又はめまいのおそれ

飲み込み、気道に侵入すると有害のおそれ

長期又は反復ばく露による肝臓、中枢神経、視覚器の障害

長期又は反復ばく露による神経、血管の障害のおそれ

注意書き：

【安全対策】

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

使用前に取扱説明書を入手すること。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。

静電気放電や火花による引火を防止すること。

個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。

保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

【救急処置】

火災の場合には適切な消火方法をとること。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で
休息させること。

眼に入った場合：水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクト
レンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。

皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。

衣類にかかった場合：直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、
取り除くこと。

ばく露又はその懸念がある場合：医師の診断、手当てを受けること。

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

容器を密閉して涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理
業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報 単一製品・混合物の区別 混合物

化学名	エタノール	メタノール
含有量	87.0～90.0%未満	3.9～4.9%
構造式	CH ₃ CH ₂ OH	CH ₃ OH
官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	(2)-202	(2)-201
CAS No.	64-17-5	67-56-1

4. 応急措置

皮膚についた場合：汚染した衣服を脱ぎ、触れた部位を多量の水で洗い流す。

もし、皮膚に炎症を生じたときは医師の手当を受ける。

目に入った場合：直ちに流水で15分以上洗眼し、医師の手当を受ける。

吸入した場合 : 患者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、安静、保温に努め、速やかに医師の手当を受ける。呼吸が停止している場合には人工呼吸を行い、呼吸困難な場合には酸素呼吸を行う。

飲み込んだ場合 : 水でよく口の中を洗う。保温して早く医師の診察を受ける。

5. 火災時の措置

消火方法 : 火元への燃料源を立ち、消火剤を使用して消火する。スプレー水で火炎に曝露されている表面を冷す。消火作業は風上から行い、場合によっては呼吸保護具を着用する。

消火剤 : 泡(アルコールが望ましい)、粉末、二酸化炭素、ハロゲン化物が有効である。

6. 漏出時の措置

注意事項 : 作業の際保護具を着用し、風上から作業する。

火気を厳禁とする。

除去方法 : 少量の場合は、土砂、ウエス等に吸着させる。

大量の場合は、土砂等で流れを止め、安全な場所に導いて回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い ・吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように適切な保護具を着用する。

・蒸気の発散をできるだけ抑え、作業環境を許容濃度(暴露防止装置の欄参照)以下に保つように努める。

・容器を密栓し、または局所排気装置を設置する。

・漏れ、溢れ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。

・高温物、スパーク、火炎をさけ、強酸化剤との接触を避ける。

・容器を転倒、落下又は衝撃を加える等の粗暴な取扱いをしない。

・使用済みの空容器は一定の場所を定めて集積する。

保管 ・保管場所で使用する電気機器は防爆構造とし、機器類はすべて設置する。

・容器は直射日光を避け、冷暗所に貯蔵し、密閉して、空気との接触をさける。

・ボイラー等熱源付近や可燃物の近くにおかない。

8. 暴露防止及び保護装置

管理濃度、許容濃度

	エタノール	メタノール
管理濃度 (ppm)	—	200
許容濃度 (ppm)		
日本産業衛生学会勧告値	—	200
ACGIH	1,000	200

設備対策

- ・屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、又は局所排気装置を設置する。
- ・取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

保護具

状況に応じ、有機ガス用防毒マスク、送気マスク、空気呼吸器、保護眼鏡、保護手袋、保護長靴等を使用する。

9. 物理的及び化学的性質

	エタノール	メタノール
外観	無色透明 揮発性液体	無色透明 揮発性液体
沸点(°C)	78.3	64.6
蒸気圧(kPa, 20°C)	5.9	12.7
融点(°C)	-114	-96
比重(20°C)	0.79	0.80
蒸気密度	1.59	1.11
溶解度	水、エーテルに 易溶	水、エーテルに 易溶
オクタンル/水分配係数	-0.30	0.77
引火点(°C)	14	11
発火点(°C)	392	470
爆発限界(vol%)	3.3~19.0	6.7~36.5

10. 安全性及び反応性

可燃性：引火燃焼する。

安全性：常温で安定

反応性：強酸化剤（硝酸、過酸化水素、過塩素酸塩類等）と激しく反応する。

11. 有害性情報

エタノールの有害性情報

急性毒性	経口 人	LDL0	1,400mg/kg	
	経口 ラット	LD50	7,060mg/kg	
変異原性	小核 マウス (腹腔)		1,240mg/kg・48h	
			遺伝性疾患のおそれ (区分1B)	
癌原性	経口 マウス	TDL0	320mg/kg/50週	毒性未評価
皮膚刺激性	ラビット	400mg 開放	症状 (軽度)	
眼刺激性	ラビット	100mg/24h	症状 (中度)	強い眼刺激性 (区分2A)
生殖毒性	生殖能又は胎児への悪影響のおそれ			(区分1A)
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	呼吸器への刺激のおそれ (区分3)			
	眠気又はめまいのおそれ (区分3)			
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	区分1 (肝臓)			
	「ヒトでアルコールの長期大量摂取により障害は脂肪変性に始まり、壊死と線維化を経て肝硬変に至る」			
	区分2 (神経)			
	「アルコール中毒患者の禁断症状 (振戦症状、てんかん、精神錯乱)」			
	長期又は反復ばく露による肝臓の障害 (区分1)			
	長期又は反復ばく露による神経の障害のおそれ (区分2)			
吸引性呼吸器有害性	情報なし			

メタノールの有害性情報

急性毒性	経口 ラット	LD50	5,628mg/kg	マウス LD50	7,300mg/kg
	吸入 ラット	LC50	64,000ppm/4H	マウス LCL0	50g/m3/2H
	メタノール暴露による急性中毒症状は、視神経障害、失明などを除けば酒などのアルコール飲料の飲み過ぎによる症状に似ている。人の致死量は経口摂取で1g/kg以下或は100~250mlの飲み過ぎで死亡すると言われている。				
	飲み込むと有害のおそれ (区分5)				
変異原性	マウス1g/kg経口投与した染色体異常試験において異常のあった事が報告されている。				
癌原性	知見なし				
眼刺激性	強い眼刺激性 (区分2A-2B)				
生殖毒性	生殖能又は胎児への悪影響のおそれ (区分1B)				

特定標的臓器・全身毒性

(単回ばく露) : ヒトで急性経口又は吸入ばく露により中枢神経系の抑制および視覚器障害がみられる

中枢神経系、視覚器、全身毒性の障害 (区分1)

過剰ばく露の徴候及び症状は、眠気及び意識喪失等の中枢神経系作用のことがある。

眠気又はめまいのおそれ (区分3)

麻酔作用を有する。

呼吸器への刺激のおそれ (区分3)

特定標的臓器・全身毒性

(反復ばく露) : ヒトの長期ばく露例で中枢神経系の抑制および視覚器障害がみられた。標的臓器は中枢神経系および視覚器。

長期又は反復ばく露による中枢神経系、視覚器の障害 (区分1)

吸引性呼吸器有害性: 情報なし

1 2. 環境影響情報

エタノールの環境影響情報

水生環境急性有害性: 甲殻類 (オオミジンコ) の48時間LC50=5463.9mg/L 区分外

水生環境慢性有害性: 難水溶性でない (水溶解度=1.00×106mg/L)、急性毒性が低い、区分外
分解性 BOD₅ 0.93~1.67mg/L 魚毒性 マスの幼魚 LC₅₀ 11.2g/L・24h

メタノールの環境影響情報

水生環境急性有害性: 甲殻類 ブラインシュリンプ LC50 900.73mg/L/24H

水生環境慢性有害性: 難水溶性でない (水溶解度=1.00×106mg/L)、
急性毒性が低い、区分外

分解性 BOD 53%分解 魚毒性 マス 48時間TL_M 8000mg/L

1 3. 廃棄上の注意

- ・廃棄物処理法において「特別管理産業廃棄物」に該当する。
- ・関係法令や条例に従って処理する。
- ・焼却処理する場合には、アフターバーナーおよびスクラバーを備えた焼却炉で焼却する。
- ・廃棄できない場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。
- ・これを含む排水は活性汚泥法等の処理により清浄にしてから排出する。

14. 輸送上の注意

陸上規制情報	消防法の規定に従う。
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。

品名	エタノール	メタノール
国連分類	クラス3 (引火性液体)	クラス3 (引火性液体)
容器等級	II	II
国連番号	1170	1230
海洋汚染物質	非該当	非該当
福次危険		6.1

特別の安全対策

- ・危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。
- ・食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
- ・車両等によって運搬する場合は、荷送人は運送人に運送注意書、イエローカードを交付する。
- ・運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積込み、荷崩れの防止を確実に行う。

15. 適用法令

消防法	： 危険物第4類アルコール類
労働安全衛生法	： 施行令 別表第1 危険物（引火性の物） 別表第9 通知物質（エタノール、メタノール） 第18条 名称などを表示すべき有害物（メタノール） 有機溶剤中毒予防規則 該当しない
労働基準法	： 疾病化学物質（法第75条第2項）
航空法	： 引火性液体（施行規則第194条危険物告示別表第1）
船舶安全法	： 引火性液体類
海洋汚染防止法	： 有害液体物質 Y 類物質（施行令別表第1）
水質汚濁防止法	： 生活環境項目（施行令第三条第一項）

16. その他の情報

記載内容は現時点で入手した情報等に基づいて作成していますので、新しい知見により改訂されることがあります。また、安全データシートは安全保証書ではありません。

本品を取り扱う場合には使用者の責任において実態に応じた適切な処置を講じてください。